

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670200510
法人名	医療法人 厚徳会
事業所名	グループホーム ふるさとの家「すずらん」
訪問調査日	平成22年3月7日
評価確定日	平成22年5月6日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みません。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4670200510
法人名	医療法人 厚徳会
事業所名	グループホーム ふるさとの家「すずらん」
所在地	鹿児島県薩摩川内市勝目町5215-5 (電話) 0996-27-6060

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成22年3月7日	評価確定日	平成22年5月6日

【情報提供票より】(22年1月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 14.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40000円、50000円	その他の経費(月額)	光熱費、管理費 20000円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 1000円			

(4) 利用者の概要(1月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 歳	最低	65 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日高内科クリニック・こすも歯科・こざくら整形外科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

薩摩川内市郊外の住宅街にあり小規模多機能ホームと隣接している。医療法人であり、道路を挟みクリニックとデイケアを併設している。法人は地域に根ざした医療・高齢者福祉を目指し、介護と看護を一元的に支援する体制を整えてきた。基本理念の一つに「地域、社会との交流を深めあたらしく生きていくお手伝いを致します」とあり、まさに地域密着型サービスとして利用者を支えている。また、ユニットごとに理念を作成しており、常に理念に沿ったケアを実践している。利用者と同じ目線であることを心がけ、ホームが利用者にとって安心して暮らせる「家」であるように、また、職員は家族のような存在でありたいとの思いで利用者との信頼関係の構築に努めている。健康管理も医療連携体制を活かし看護師による小まめな健康状態の把握で病気の早期発見に繋がるように支援し、家族の安心につながっている。開設して9年目となりグループホームとして土台がしっかりと出来あがっており、今後は更なる取り組みが大いに期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善点はなかったが、常に改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はミーティングを利用して職員全員で取り組んだ。日常のケアの気付きや振り返りの機会となり、意義のあるものとして捉えている。具体的な改善については職員全員で話し合って取り組んでいる。外部評価の結果は家族に配布し、運営推進会議でも報告している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	家族代表、利用者代表、自治会長、行政職員などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について経過を報告し、ひとつひとつ積み上げていくようにしている。また、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうなどしてサービスの向上に活かしている。参加者より地域行事の情報や外出先についての情報などももらっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	重要事項説明書、ホーム内に相談、苦情窓口を明記し、玄関には意見箱も設置している。家族より意見、要望などがあつた際は職員全員で検討し、解決に向けて家族と充分に話し合うようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近隣保育園の運動会に見学に行ったり、中学生の職場体験学習の受け入れなどを行って子ども達との交流の機会を作ったり、自治会の夏祭りの見学に出かけるなど地域の方々との交流に努めている。ボランティアの訪問もある。また、敬老会のお祝いに紅白まんじゅうを届けてくれるなどの関わりもある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の地域交流の大切さを謳った文言を盛り込んだ地域密着型サービスとしての理念とユニットごとに職員で作成した分かりやすい独自の理念を作成し、日常のケアの目標としている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示し、ユニットごとの理念も職員紹介とともに玄関ホールに掲示している。ミーティングで理念を確認し、具体的なケアについて意見の統一を図っている。また、朝礼時に唱和し、理念を確認して実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣保育園の運動会を見学に行ったり、中学生の職場体験学習の受け入れなどを行って子ども達との交流の機会を作ったり、自治会の夏祭りに出かけるなど地域の方々との交流に努めている。ボランティアの訪問もある。また、敬老会のお祝いに紅白まんじゅうを届けてくれるなどの関わりもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はミーティングを利用して職員全員で取り組んだ。日常のケアの気付きや振り返りの機会となり、意義のあるものとして捉えている。具体的な改善については職員全員で話し合っ取り組んでいる。外部評価の結果は家族に配布し、運営推進会議でも報告している。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、利用者代表、自治会長、行政職員などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について経過を報告し、ひとつひとつ積み上げていくようにしている。また、現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうなどしてサービスの向上に活かしている。参加者より地域行事の情報や外出先についての情報などももらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービスについての相談や助言をもらうなど機会を捉えては連携をとるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族が頻りに面会にきてくれるので面会時に日常の様子や健康状態の報告を行っている。また、必要時は都度、電話で連絡している。金銭管理は毎月、請求書とともに報告書を送付し、確認してもらっている。職員紹介は面会時とホーム入り口に写真を掲げ、季刊誌のホーム便りでも紹介している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族などの意見をくみとる重要性を認識し、重要事項説明書とホーム内に相談・苦情窓口を明記し、玄関には意見箱も設置している。家族より意見、要望などがあつた際は職員全員で検討し、解決に向けて家族と十分に話し合うようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者はなじみの関係の大切さを認識し、異動、離職は最小限に抑えられるように努めている。新しい職員は利用者にきちんと紹介し、利用者からホームのことを教えてもらうような場面を作り、なじみの関係が構築できるように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の必要性を理解し、常勤、非常勤に関わらず、研修計画を作成し、法人内研修、ホーム内研修はできるだけ全員参加で行っている。また、外部研修も全職員が交代で受講できるように考慮し受講後は毎月のミーティングで発表し、研修報告書を全職員閲覧できるようにしている。ホームとして資格取得の支援もしており、取得後は職場内で活かせる労働環境作りに配慮している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出水、川薩地区のグループホーム連絡協議会に加入し、職員は交代で研修などに参加して情報交換や交流に努めている。他事業所より見学もあり、ともにサービスの質を向上に向けて取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用前に必ず、自宅や施設、病院など訪問して本人と面談している。また、可能な限り見学もしてもらいできるだけ納得して入居に至るように配慮している。入居前に聴取した本人、家族の意見、要望などを職員に伝え情報を共有して利用者を受け入れる様にしている。入居後は家族の協力をもらいながら徐々になじめるように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を介護されるのみの立場に置かず、日常生活の中で、旬の食材の調理方法を教えてもらったり、季節の行事ごとなど教わりながらともに支え合う関係を築いている。また、外出支援すると喜んでもらえたり、悩みを分かち合えたりと生活する中で喜怒哀楽をともにしている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ミーティングと職員用申し送りノートを活用し利用者の情報の共有を図っている。家族からの情報や日常生活の中で、言動や表情から一人ひとりの思いや意向を把握するように努め、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者が自分らしく暮らせるように本人、家族の要望、意向を聞き、職員全員で話し合っ本人本位の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月、個別担当者と計画作成担当者が独自に評価を行い、3ヵ月ごとのモニタリングで問題が生じたらその都度見直しを行っている。状況変化時、入退院後の見直しは随時行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望、状況に応じて、病院受診、買い物など柔軟に支援している。また、医療連携体制を活かし利用者の健康管理を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。バイタルチェック表を用いて日々の状態を看護師に報告し情報の共有を図っている。また、法人の医療機関とは24時間連携が図られており、必要時は往診も対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期に向けてのホームの方針は指針を定め、入居時に説明して同意を得ている。本人、家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携を図りながら、取り組み、研修や連絡体制を整えるなど必要な環境を作っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライドを損なわないように個々に合った声かけや対応に心がけ、勉強会、ミーティング時に職員の意識向上を図っている。また、職員採用時の個人情報保護についての誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、体調や希望に合わせた個別のケアで支援を行っている。職員主体のペースにならないように心がけ利用者のペースで支援している。また、複数の選択肢を提案し、決定するような場面作りの工夫もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を待つことより協力しながら作る楽しみを感じてもらえるように、食事作りが日々の日課になるように支援し、利用者一人ひとりの力に合わせて下ごしらえ、配膳など力を発揮する場面を作っている。また、中庭を利用してお茶を楽しんだり、嗜好を把握して「食」を楽しめるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が決めずに利用者のその日の希望や体調に合わせて柔軟に支援している。浴室が広く、気の合った者同士一緒に入浴して温泉気分を楽しんだりもしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ほとんどの利用者がテレビが好きで時代劇、歌番組、バラエティなど日常の楽しみになっている。また、月2回外出日を設け、利用者の行きたい場所に行けるように支援している。花見遠足、夏祭り、盆踊りなどの気晴らしの支援も行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように日常的に散歩、買い物、ドライブなど外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解している。昼間は鍵をかけず安全で自由な暮らしが送れるように支援している。玄関にセンサーを設置して外出の察知をしている。外出する利用者には職員がさりげなく着いて行き、見守っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を夜間想定で行っている。通報訓練も職員が駆けつける時間を計り実践的な訓練を行っている。また、地域の協力を自治会、運営推進会議で呼びかけ消防団への協力要請もしている。備蓄、カセットコンロの準備もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定と日々の食事、水分摂取量を記録し、職員は個々の状態の把握をしている。身体状況に応じて食事形態(トロミ、刻み、おかゆなど)を考慮している。栄養バランスは定期的に管理栄養士のアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のリビングは広く、畳のスペースもある。換気も行きとどいており清潔感がある。利用者が日中を居心地良く過ごせるようにテレビやソファなど配慮されている。また、浴室が広く、気の合った者同士入浴を楽しめる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホットカーペット、携帯電話、タンス、ソファ、テレビ、冷蔵庫、家族の写真などのなじみのものや飾り物などで個性的で居心地良く過ごせるような居室作りがされている。また、全居室にトイレが完備され、利用者のプライバシーに配慮している。基本的にはベッドだが、利用者の生活パターンや身体面など、希望により布団敷きにも対応している。		